

第1部

五十嵐 春香 (19世紀ギター)

1. ワルツOp.32-2.....F.ソル
2. 2つのメヌエット.....J. P.ラモー

朝倉 靖雄 (ルネサンス・リュート)

山本 百合 (リコーダー)

1. イタリアングランド.....カー
2. ファンタジア.....F.ダミラノ
3. レセルカータ.....D.オルティス

青山 比呂乃 (ソプラノ) 矢澤 勝之 (リュート)

1. ルソン・ド・テネブル
聖水曜日のための聖務日課第2課F.クーブラン

ルソン・ド・テネブルとは、フランス語で「暗闇の日課」という意味。そもそも、イースター直前の聖週間の木・金・土曜の真夜中に唱えられていた祈禱に音楽を付けたもので、キリストの受難を黙想する祈り。初期のグレゴリオ聖歌に始まり、ポリフォニー曲も多数作られているが、フランスバロック期の曲には、オルガン（およびヴィオール）による通奏低音の女声独唱曲が多い。

歌詞は、旧約聖書の哀歌からそのままとられており、原典のヘブライ語では、各節の始まりの文字に順番にアルファベットの文字を使って書かれている。そのヘブライ語文字をそのままラテン語の各節の頭に付ける習慣になっていて、それが独特の音楽的な形を生んでいると思われる。

今回は、オルガン奏者でもあったF・クーブランの現存するルソン・ド・テネブル3曲のうち、第2ルソンを取り上げ、敢えてリュートのみで演奏する。(青山比呂乃)

青柳 好高 (19世紀ギター)

1. 「宗教的な心の中で」Op. 31-23..... F.ソル

西野 辰子 (バロック・リュート)

1. アルマンド 八長調.....S. L.ヴァイス
2. サラバンド “夜8時の品” イ短調.....J.ガロ
3. カナリー “カスターネット” イ短調.....J.ガロ

第2部

《あんさんぶる・くうぶらん》

長谷川 敦子 (Viole) 友松 三砂子 (Flûte traversière)

友松 雅英 (Flûte traversière) 渡辺 マリ (Viole)

青山 比呂乃 (Viole) 矢澤 勝之 (Luthe)

- 「リュートを讃えて」より抜粋.....F.クーブラン
1. リュリはエリゼの野で詩霊と合奏
 2. 同じくエール
 3. コレリとイタリアのミュージズたちによる歓待

4. リュリのアポロンへの感謝
5. リュリとコレリりの二重奏
6. ロンド風 “パルナッス山の平和” より

「リュートを讃えて」は、F・クーブラン(1668-1733)により、1725年に作曲された室内器楽曲で、全16楽章の大曲だが、今回はその中から6楽章を演奏する。全体はリュリがアポロンに伴われて神々の世界(パルナッス山)に昇り、コレリと出会うという物語になっていて、各楽章の始めに、フランス語のタイトルや情景描写がついている。

当時のフランスでは、イタリア趣味の音楽(コレリで象徴)とフランス趣味の音楽(リュリ)とが争うような面があったが、クーブランはこの二つの融合こそが完璧な音楽であるということはこの作品で表現している。今回は、フルートがリュリを、ヴィオールがコレリを担当している。(青山比呂乃)

岡田 紀世史 (バロック・リュート)

1. 組曲第11番二短調(原曲ホ短調) BuxWV236
.....D.ブクステフーデ(C. Titmuss編)
アルマンド - クーラント - サラバンド - ジーク

J.S.バッハに多大な影響を与えた、北ドイツの大オルガニスト、ディートリヒ・ブクステフーデ(1637?-1707)さんは、今年没後300年を迎え、各地で記念コンサートが開かれるという事を最近になって知りました。本日のこの曲には、クラヴィア組曲作品とリュートのためのタブラチュアが存在するそうで、双方から編曲されたものだそうです。ブクステフーデの鍵盤組曲はフランスリュート楽派の影響を受け、フランス的な繊細さに溢れ、豪放なオルガン自由曲と好対照をなしていると言われております。

小松 俊二 (バロック・ギター)

1. 組曲変ホ長調..... F.カンピオン
Courante La Mauleurier - Menuet Rondeau - Gigue - Gavotte - Chacone

F.カンピオンはフランスのバロック後期の作曲・演奏家です。バロック・ギターとテオルポを得意とした宮廷楽士でした。ユニークなことは1705年に7種のスコルダトゥーラ(変則チューニング)によるバロック・ギター作品を残しています。その中で一番多く書いたスコルダトゥーラ(5コースよりB, D, G, C, F)作品を選びました。通常のチューニングでは変ホ長調はセーハが多くキツくなりますが、このチューニングではセーハはまったくありません。楽チンです。(?)他の演奏家と違う7色の月光仮面調弦で(?)変幻自在な演奏をしたカンピオンは目立ちたがり屋だったのででしょうか。

菅 朋子 (ルネサンス・リュート)

1. Lute Galliard..... A.ホルボーン
2. A Fancy (No.73)..... J.ダウランド
3. Canon..... J.パッヘルベル

五十嵐 正明 (ルネサンス・リュート)

1. 2つのファンタシア..... L.ミラン
2. パバーナ..... L.ミラン
3. リチエルカーレ・プリモ..... M.ダ・クレマ
4. レディ・ラッセルのパヴァン..... J.ダウランド
5. かえるのガリアルド..... J.ダウランド